

2024年度 第3四半期決算説明資料

対象期間：2024.4.1-2024.12.31

2025年2月10日

2024年度 第3四半期 連結決算のハイライト

(億円)	23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	24年度 通期計画
売上高	8,330	8,750	+5.0% +420	75.5%	11,590
うち、海外売上高	986*	1,179	+19.6% +192	77.3%	1,524
営業利益	697	664	△4.7% △32	77.3%	860
営業利益率	8.4%	7.6%	△0.8pt	—	7.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	449	436	△2.9% △13	87.2%	500
E P S	161.13円	159.38円	△1.75円	—	181.74円

- 売上高は食品、医薬品ともに増収
- 営業利益は医薬品の棚卸資産評価減により減益
- 四半期純利益は減益

食品：2024年度 第3四半期 決算概要

(億円)	23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	24年度 通期計画
売上高	6,794	7,016	+3.3% +221	76.8%	9,138
営業利益	486	494	+1.7% +8	75.0%	660

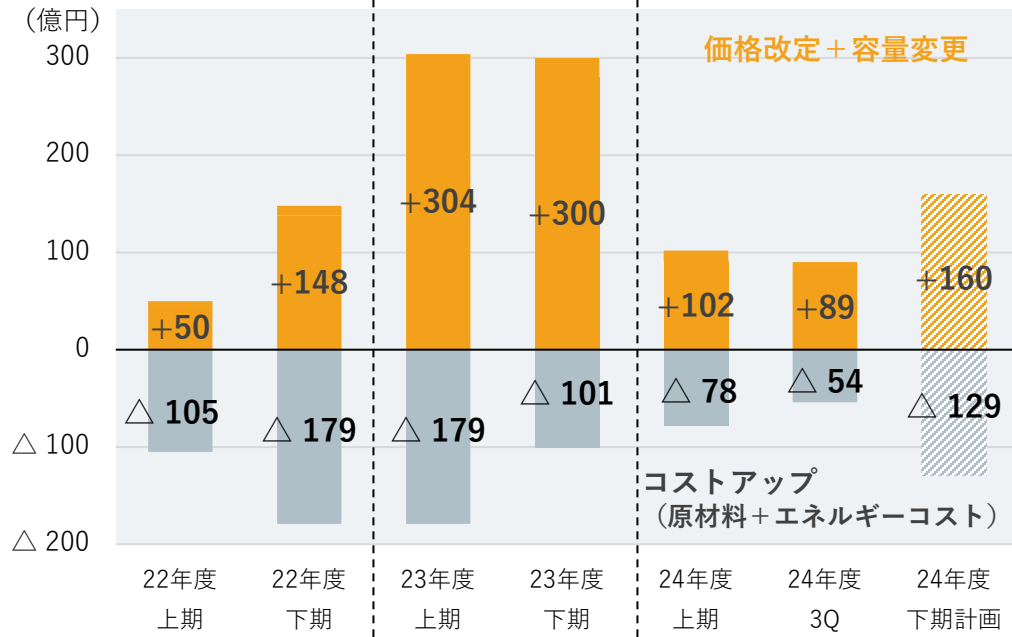
営業利益 増減分析

国内：+39
海外：△30

23年度1-3Q実績	486	
売上増減	+147	： 価格改定効果+177 数量やプロダクトミックスの変動など△29
原価の変動	△119	： 原材料コスト（カカオ、国内生乳など）△134 容量変更など+15
マーケティング費用等の変動	△9	： 販売費やDX関連費用の増加
その他費用の変動	+6	： 一般管理費増加の一方で、生産体制整備による製造間接費の減少
その他（子会社損益含む）	△16	： 中国子会社・米国子会社が減益、アジア子会社は増益 国内は販売子会社や飼糧子会社が増益
24年度1-3Q実績	494	

食品：コストアップへの対応と付加価値戦略の追求

営業利益への影響額



- カカオ豆の相場上昇により急激なコストアップが発生。為替も高止まりしており、エネルギーコストの増加も見込まれる
- 引き続き、商品とマーケティングの両面から付加価値戦略を追求し、コストアップが続いても収益性は維持・向上させる

〈24年度の主な価格改定〉

24年6月	チョコレート・グミ	+3-33%
9月	アイスクリーム	+5-11%
10月	チョコレート・スナック	+6-31%
	粉ミルク	+3.5%
	ザバス (粉)	+6%
25年3月	チョコレート	+6-33%
	ザバス (粉)	+9-11%
	チーズ	+5-9%

伝達力の強化

商品力の向上

- ・ マーケティング強化による、価格改定後の数量減の最小化
- ・ メリハリのあるマーケティング活動で需要を喚起

数量増につながる施策

- ・ 強いブランドのラインアップ拡大（事業の枠を越えた展開も）
- ・ 研究開発力・技術力を生かした新商品の発売やリニューアル

単価アップにつながる施策

食品：2024年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

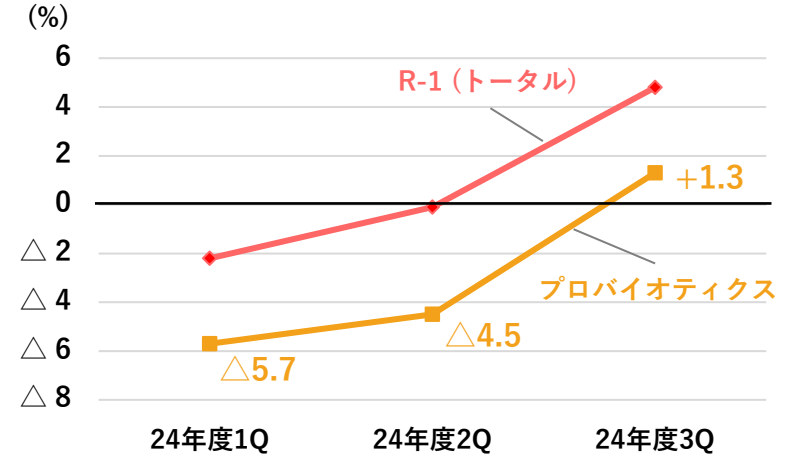
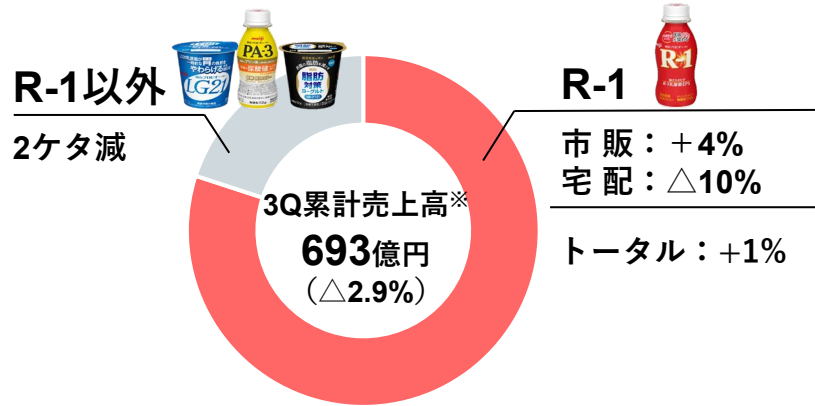
(億円)	食品 全体	デイリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
23年度1-3Q営業利益	486	136	107	133	84	23
売上増減	+147	+22	+51	+9	+68	△3
原価の変動	△119	△19	△52	+5	△45	△8
経費等の増減	△3	+18	+6	△18	△15	+5
マーケティング費用等 の変動	△9	+10	△1	△10	△11	+2
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+6 (+7)	+8	+7	△8	△4	+3
その他 (子会社損益など)	△16	+5	+1	+2	△27	+3
24年度1-3Q営業利益	494	162	113	132	65	21

食品：2024年度 第3四半期 事業概況

■ デイリー事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	2,037	△2.0% △41
営業利益	162	+18.8% +25

● プロバイオティクスの販売状況



● 市場 (1-3Q)

- ヨーグルト：+1~2% 牛乳：+1~2%

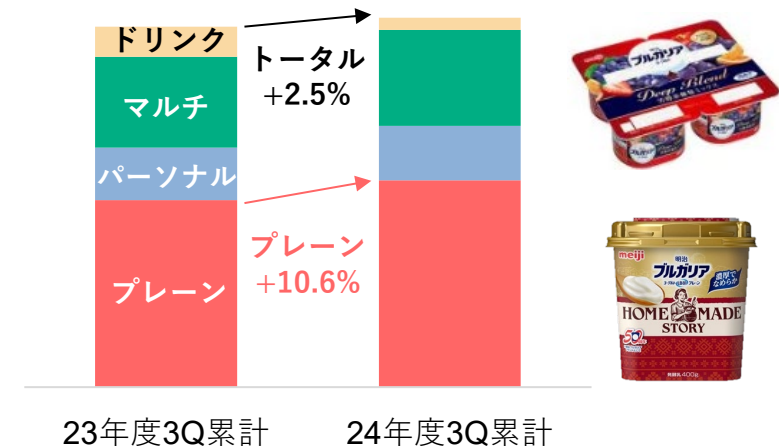
● 売上高

- プロバイオはR-1の回復によりマイナス幅が縮小
- ヨーグルトはブルガリアプレーンやマルチが好調。大容量ドリンクタイプの終売影響は一巡
- 中国はリバイバルプランによる販売先の見直しにより減収

● 営業利益

- 国内は牛乳の価格改定効果と宣伝費や製造間接費の減少により増益
- 海外は中国のリバイバルプランにより赤字縮小

● ブルガリアヨーグルトタイプ別売上高※



※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

食品：2024年度 第3四半期 事業概況

■ カカオ事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	1,263	+12.7% +142
営業利益	113	+5.4% +5

- 市場（1-3Q）
 - チョコレート：+5～6% グミ：+17～18%
- 売上高
 - チョコレートは価格改定に加えて、「チョコレート効果」など主力ブランドが好調
 - グミは一部商品の終売もあり減収。今後は生産能力増強と商品ラインアップ強化で反転攻勢
 - 海外は中国と米国が好調に推移
- 営業利益
 - 国内は価格改定とコスト削減により増益
 - 海外は米国の生産能力増強によるコスト増などで減益

■ ニュートリション事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	950	+6.1% +54
営業利益	132	△1.1% △1

- 市場（1-3Q）
 - スポーツプロテイン（飲料）：+4～5%
- 売上高
 - 「ザバス」は粉末・飲料タイプとも増収
 - 乳幼児ミルクは海外でベトナムなどが伸長
- 営業利益
 - 国内は「ザバス」増収効果と原材料コストの低下により増益
 - 海外は事業拡大に向けた先行投資費用増により減益

食品：2024年度 第3四半期 事業概況

■ フードソリューション事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	1,495	+6.1% +85
営業利益	65	△22.8% △19

● 売上高

- BtoBは価格改定に加え、提案強化によるクリームやカカオの取り扱い拡大やインバウンド需要により伸長
- フローズンデザートは主力の「エッセルスーパーカップ」が増収に寄与
- 海外は中国フローズンデザート事業が天候不順の影響により大幅減収

● 営業利益

- 国内はBtoBやフローズンデザートの増収などにより増益
- 海外は中国フローズンデザート事業の減収や新工場稼働によるコスト増により大幅減益

■ その他事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	1,269	△1.6% △20
営業利益	21	△10.1% △2

● 売上高

- 脱脂粉乳など乳原料の販売減少が影響
- 国内子会社は飼料子会社が減収

● 営業利益

- 減収や原材料コストの上昇などにより大幅減益
- 飼料子会社が原材料コストの減少で増益

食品：2024年度 第3四半期 事業概況

■ 海外事業

(億円)		23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	前年 同期比	通期計画 進捗率	24年度 通期計画 (11月修正)	前期比
中国	売上高	184	191	+4.0% +7	76.6%	250	+2.5% +6
	営業利益	△27	△53	— △25	—	△74	— △36
アジア	売上高	125	238	+89.7% +112	82.6%	289	+59.4% +107
	営業利益	9	17	+89.8% +8	110.3%	16	+4.7% +0
欧米	売上高	233	290	+24.0% +56	78.6%	369	+12.6% +41
	営業利益	16	12	△22.7% △3	64.8%	19	△18.5% △4
海外計	売上高	560	686	+22.5% +125	83.1%	826	+6.3% +49
	営業利益	△21	△52	— △30	—	△72	— △48

● 中国

- 市販用牛乳・ヨーグルトはリバイバルプランによる販売先・SKU見直しにより減収増益
- BtoBは新規顧客獲得で増収だが、新工場稼働によるコスト増により減益
- 菓子はアーモンドチョコが好調、新工場稼働によるコスト増をカバーし増益
- フローズンデザートは上期の天候不順による減収と、新工場稼働によるコスト増により大幅な減益

● アジア

- ベトナム、台湾の乳幼児ミルクが伸長し増収増益
- シンガポールが増収だが国内向け原料輸出のため利益影響は軽微

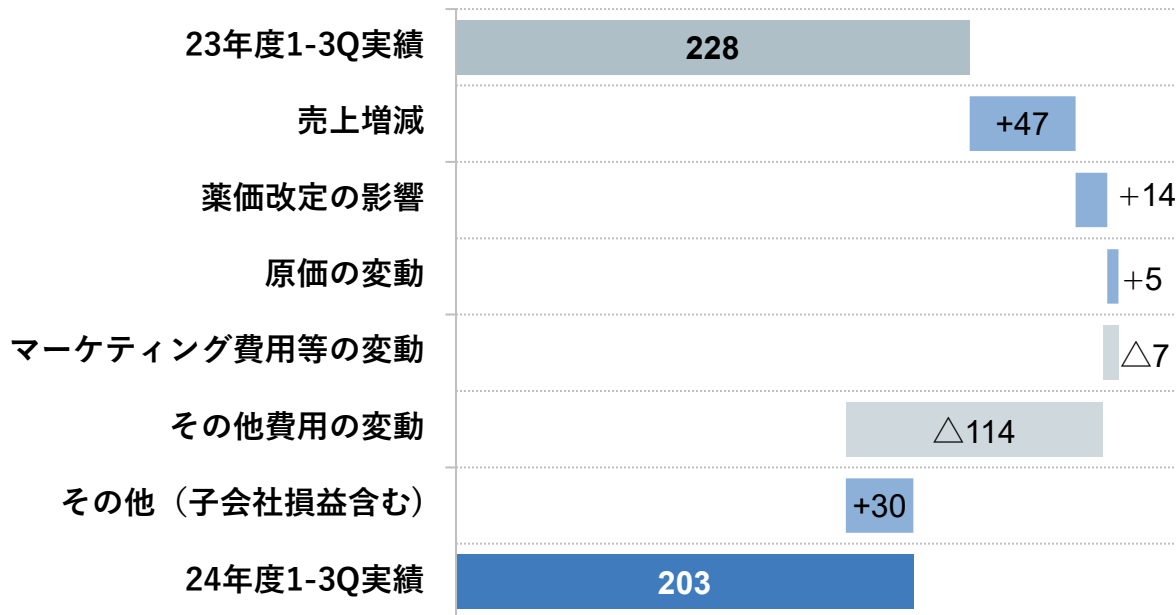
● 米国

- 積極的プロモーションによりmeijiブランド品のチョコスナックが伸長
- マーケティング費用や、生産能力増強投資に伴う減価償却費の増加により減益

医薬品：2024年度 第3四半期 決算概要

(億円)	23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	24年度		24年度 通期計画
			前年同期比	通期計画 進捗率	
売上高	1,540	1,740	+13.0% +200	70.8%	2,458
営業利益	228	203	△10.8% △24	81.2%	250

営業利益 増減分析



：主力品の増収や新規発売品による国内のプロダクトミックス改善

：原価低減

：新規発売品に関する普及費の増加

：棚卸資産評価減や研究開発費の増加

：国内はGE販売子会社が増益
海外はインドやタイの子会社が増益

医薬品：事業別売上高・営業利益 ※修正有り

(億円)

		23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	前年 同期比	通期計画 進捗率	24年度 通期計画 (2月修正)	前期比	11月修正 計画との差	24年度 通期計画 (11月修正)
国内	売上高	776	870	+12.1% +93	74.5%	1,167	+10.9% +115	—	1,167
	営業利益	132	175	+32.7% +43	74.9%	234	+48.1% +76	+31	203
海外	売上高	425	492	+15.7% +66	70.5%	698	+22.3% +127	—	698
	営業利益	48	52	+9.7% +4	193.4%	27	△44.7% △22	+27	0
ワクチン・動物薬	売上高	338	377	+11.6% +39	63.9%	591	+35.4% +154	—	591
	営業利益	47	△25	— △72	—	△12	— △31	△58	46

- 国内事業は増収および研究開発費、普及費の見直しで増益
- 海外事業は増収および研究開発費の見直しで増益
- ワクチン・動物薬は研究開発費の見直しや子会社損益改善などで、棚卸資産評価減影響を一部カバー

2024年度計画：修正なし

(億円)	23年度 通期実績	24年度 通期計画	前期比
売上高	11,054	11,590	+4.8% +535
営業利益	843	860	+2.0% +16
営業利益率	7.6%	7.4%	△0.2 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	506	500	△1.3% △6
EPS	181.64円	181.74円	+0.10円
1株当たり配当金	95円	100円	+5円
総還元性向	52.3%	114.6%	+62.3 pt
ROE	6.9%	7.0%	+0.1 pt
ROIC	6.2%	7.0%	+0.8 pt
設備投資額	534	770	+44.2% +236
営業CF	1,079	600	△44.4% △479
フリーCF	833	10	△98.8% △823

参考資料

2024年度 第3四半期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
23年度1-3Q実績	697	486	228	△17
売上増減	+194 *1	+147	+47	—
薬価改定の影響	+14	—	+14	—
原価の変動	△114 *2	△119	+5	—
経費等の増減	△124 *3	△3	△121	—
その他（子会社損益含む）	△3	△16	+30	△16
24年度1-3Q実績	664	494	203	△33

*1： 価格改定効果を含む

*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、カカオ原料など）△134
その他（容量変更など）+15

【医薬品】 原価低減+5

*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△9、その他経費の変動+6

【医薬品】 マーケティング費用等の変動△7、その他経費の変動△114

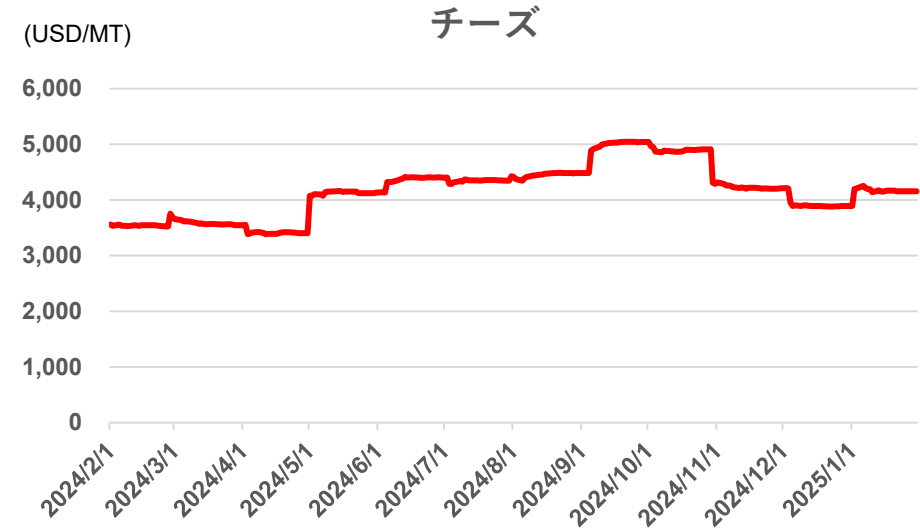
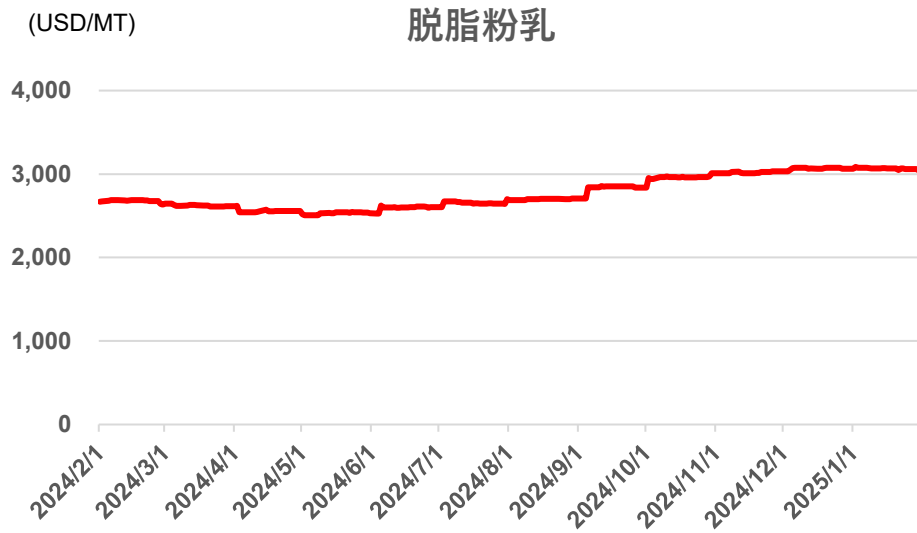
食品：2024年度通期（計画）事業別営業利益増減分析

(億円)	食品全体	デイリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
23年度通期営業利益	643	196	155	167	98	24
売上増減	+263	+36	+101	+41	+95	△12
原価の変動	△176	△18	△97	△8	△43	△8
経費等の増減	△33	+1	+4	△23	△23	+7
マーケティング費用等の変動	△37	△1	△7	△10	△16	△2
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+4 (+7)	+3	+10	△13	△6	+10
その他 (子会社損益など)	△37	+7	△16	△1	△28	+1
24年度通期営業利益 (11月修正計画)	660	222	148	176	100	12

食品：事業別売上高・営業利益

		(億円)					
		23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	24年度 通期計画 (11月修正)	前期比
デイリー	売上高	2,078	2,037	△2.0% △41	75.4%	2,701	△1.5% △40
	営業利益	136	162	+18.8% +25	72.7%	222	+13.2% +25
カカオ	売上高	1,121	1,263	+12.7% +142	77.3%	1,635	+5.2% +80
	営業利益	107	113	+5.4% +5	76.8%	148	△4.8% △7
ニュートリション	売上高	896	950	+6.1% +54	78.0%	1,219	+5.0% +57
	営業利益	133	132	△1.1% △1	75.3%	176	+4.9% +8
フードソリューション	売上高	1,409	1,495	+6.1% +85	76.3%	1,960	+6.9% +126
	営業利益	84	65	△22.8% △19	65.1%	100	+2.0% +1
その他	売上高	1,289	1,269	△1.6% △20	78.3%	1,621	△5.1% △87
	営業利益	23	21	△10.1% △2	169.2%	12	△48.7% △11
うち、海外	売上高	560	686	+22.5% +125	83.1%	826	+6.3% +49
	営業利益	△21	△52	— △30	—	△72	— △48

主要輸入原料相場の動向



医薬品：2024年度 第3四半期 事業別概況

■ 国内事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	870	+12.1% +93
営業利益	175	+32.7% +43

● 売上高

- 抗菌薬「スルバシリン」「メイアクト」の増収や、2024年5月発売の選択的ROCK2阻害剤「レズロック錠」も寄与

● 営業利益

- 主力品の販売数量増に加え、GE販売子会社が大幅増益に貢献

■ 海外事業

(億円)	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	492	+15.7% +66
営業利益	52	+9.7% +4

● 売上高

- 為替影響に加え、インド子会社のCMO/CDMO事業やタイ子会社が好調に推移

● 営業利益

- 主力品の販売数量増に加え、海外子会社の増収により、研究開発費増加をカバーし増益

医薬品：2024年度 第3四半期 事業別概況

■ ワクチン・動物薬事業

(億円)

	24年度 1-3Q実績	前年 同期比
売上高	377	+11.6% +39
営業利益	△25	— △72

- 売上高
 - ・ インフルエンザワクチンの出荷本数が大幅増加
- 営業利益
 - ・ 棚卸資産評価減の増加により営業損失を計上

医薬品：国内事業 主要カテゴリー売上高

(億円)	23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績			24年度 通期計画 (11月修正)	前期比
			前年 同期比	通期計画 進捗率		
感染症領域※1	317	362	+14.3% +45	77.4%	468	+9.7% +41
免疫領域※1	133	178	+34.1% +45	69.3%	257	+27.9% +56
中枢神経系（CNS）領域※1	172	172	△0.3% △0	75.3%	228	+2.6% +5
ジェネリック医薬品※2	153	157	+2.2% +3	73.8%	212	+5.8% +11
ヒト用ワクチン	258	301	+16.6% +42	61.8%	488	+47.6% +157

※1：各領域のジェネリック医薬品を含む

※2：各領域に含まれないジェネリック医薬品のみ売上高

医薬品：2024年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
23年度1-3Q営業利益	228	132	48	47
売上増減	+47	+9	+7	+31
薬価改定の影響	+14	+14	—	—
原価の変動	+5	+6	△1	△0
経費等の増減	△121	△10	△11	△99
マーケティング費用等の変動	△7	+1	△0	△7
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△114 (△25)	△11	△11	△92
その他 (子会社損益など)	+30	+24	+10	△4
24年度1-3Q営業利益	203	175	52	△25

医薬品：2024年度通期（計画）事業別営業利益増減分析 ※修正有り

(億円)	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
23年度通期営業利益	227	158	49	19
売上増減	+61	+28	+1	+32
薬価改定の影響	+15	+15	—	—
原価の変動	+8	+9	△0	△0
経費等の増減	△130	△7	△24	△100
マーケティング費用等の変動	+3	+1	△2	+4
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△133 (△34)	△8	△22	△104
その他 (子会社損益など)	+69	+31	+1	+37
24年度通期営業利益 (2月修正計画)	250	234	27	△12

医薬品：開発パイプラインー1

	開発コード名（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
感染 領域	OP0595* (ナキュバクタム)	β -ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	Phase III（日本・海外）**
免疫 領域	KD-380	血漿分画製剤	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法	Phase III（日本）
	KD-416*	血漿分画製剤	血液凝固第X因子欠乏症患者の出血傾向の抑制	Phase III（日本）
新 領域	ME3208 (ベルモスジル)	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬	発売（日本）：製品名 レズロック錠200mg (2024年5月22日発売) 発売（韓国）：製品名 REZUROCK Tablets (2024年11月発売) 申請（台湾・タイ）
	DMB-3115	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎	承認（米国・欧州） 申請（海外） Phase I（日本）
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III（日本・海外）**
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II（海外）
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II（日本）**

*自社創製

**国際共同治験

医薬品：開発パイプライン-2

	開発コード名	薬効/作用	予定適応症	開発段階
ワクチン	KD-370	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防（5種混合ワクチン）	発売（日本）：製品名クイントバック水性懸濁注射用（2024年3月14日発売）
	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（18歳以上・レプリコンワクチン）	発売（日本） ※2024年9月13日に一部変更承認(オミクロン株JN.1)
	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（12歳以上・レプリコンワクチン）	Phase III（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（18～40歳）**（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（6か月～11歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：オミクロン株）	Phase III（6か月～12歳）（日本）
	KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン）	Phase II（日本）
	KD-382	ワクチン	デング熱の予防（4価弱毒生ワクチン）	Phase I（海外）

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプラインー3

	開発コード名	薬効/作用	開発段階
動物用医薬品	ME4137	抗菌性注射剤（牛）	発売（日本）：製品名フォーシル （2024年5月27日発売）
	ME4137	抗菌性注射剤（豚）	発売（日本）：製品名フォーシルS （2025年1月6日発売）
	KD-412*	ワクチン（牛）	承認（日本）
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	申請（日本）
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	開発中
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

*自社創製

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。